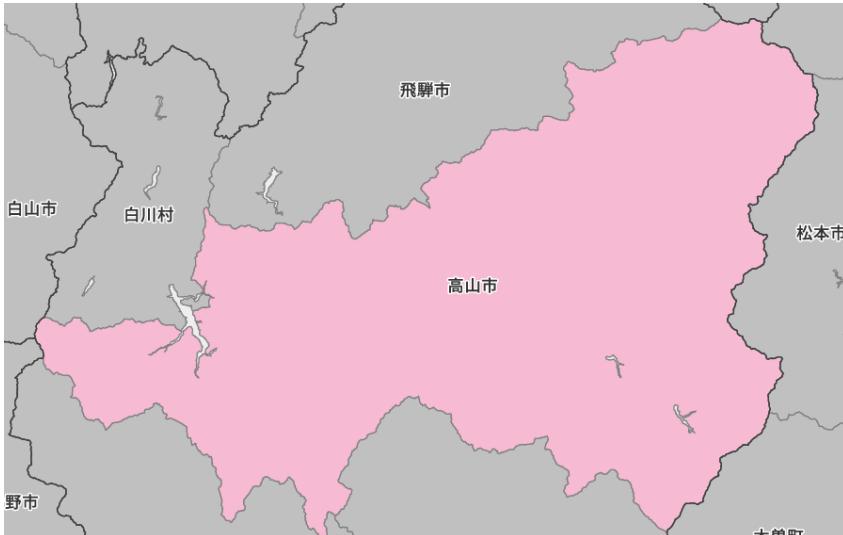


# 高山市におけるナショナル トレーニングセンターの 活用と地域振興の可能性

岐阜協立大学大学院 経営学研究科  
大庭孝斗

# 高山市の状況

- ・標高差（市街地600M）
- ・面積は市町村別で日本最大
- ・山岳地帯の多さ＝高地スポーツとの親和性
- ・豊かな自然・森林・温泉資源を有する広域圏



出典：Map-It

**地域資源は豊富だが、  
観光の季節偏在と  
人口減少が課題**

# 飛騨御嶽トレーニングセンターの概要

## 【飛騨御嶽高地トレーニングエリア】



- ・標高: 約1,300m
- ・旧日和田小学校を改修し整備(2020年)
- ・国のナショナルトレーニングセンター  
地方拠点に指定
- ・合宿・高地トレーニング・競技力向上を  
目的に誘致
- ・体育館・宿泊機能・グラウンドなど  
主要設備を整備

高地環境という”希少な地域資源”を  
活かす基盤が整備されている

# 構造的課題（地域×施設×立地）

市街地からの  
距離があり  
回遊性が弱い

公共交通が限定的

周辺観光との  
動線が細く  
連結しにくい

冬季の積雪により  
稼働が落ちる  
地理的制約

宿泊・交通・温泉  
資源との連携が  
制度化されていない

高地環境を活かした  
体験コンテンツが  
不足

地理的条件×連携不足の「構造的課題」が  
利用拡大を拒む

# 研究の目的

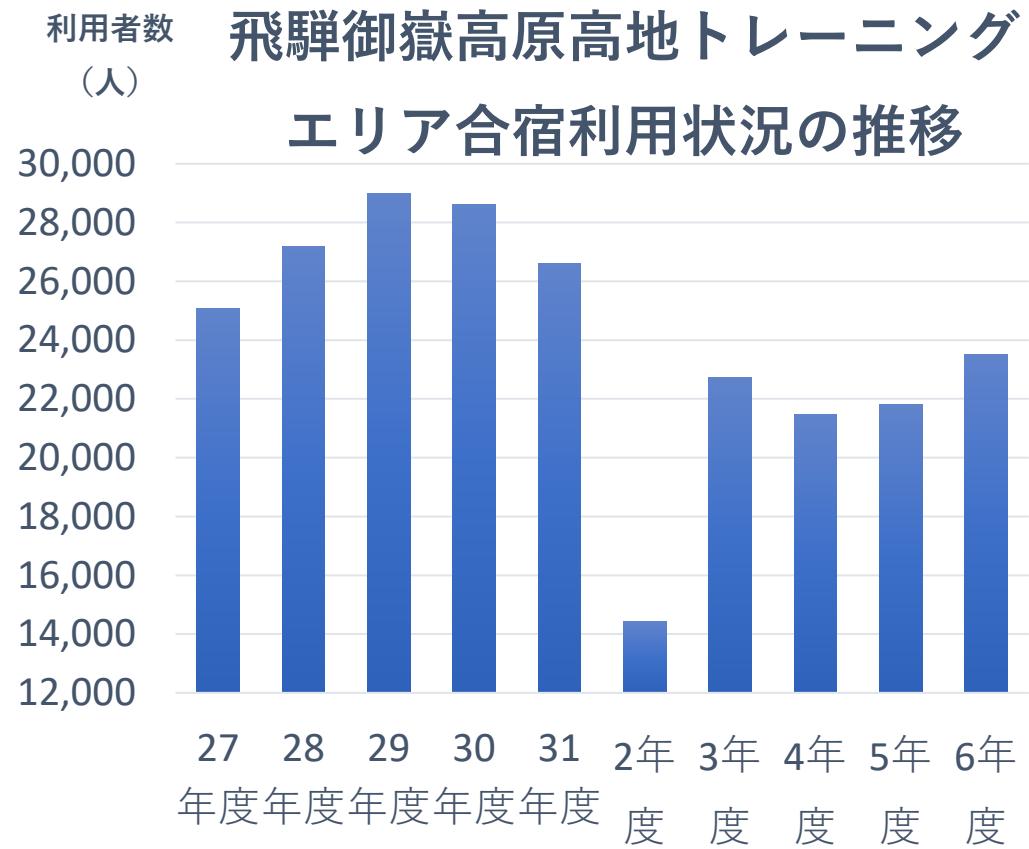
- ①高地トレーニング施設を「地域資源」として再評価すること
- ②競技者中心の利用構造から、市民・観光客を含む多層的利用へ  
　　拡張できるか検討
- ③高地環境×健康×観光を統合した新たな地域振興モデルの構築
- ④国の政策（スポーツ基本計画、地方創生）との整合性から  
　　政策的妥当性を評価
- ⑤地域経済・健康増進・交流人口拡大への寄与可能性を明らかにする

# 現状の利用実態（年度別）

競技者向け合宿が  
中心で推移している



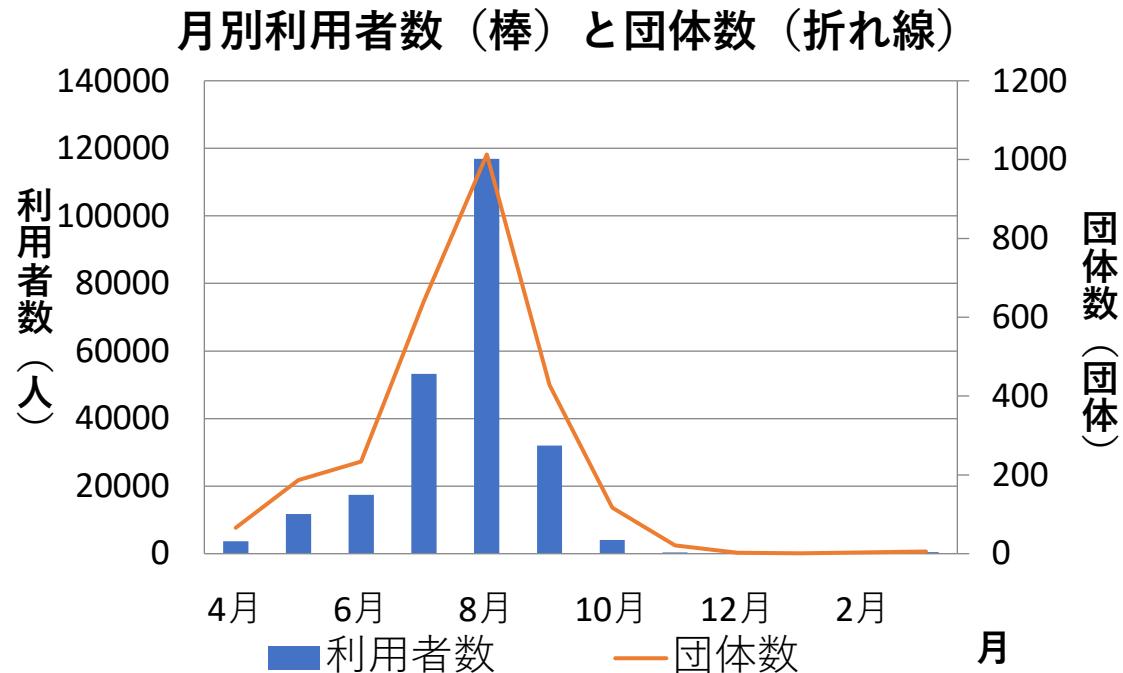
出典：JOC NTC競技別強化拠点  
飛騨御嶽高原高地トレーニングエリアより



出典：高山市市民活動部スポーツ推進課 提供資料（2024年）

# 季節別利用状況

- 利用は春～秋に集中
- 特に7月～8月がピーク
- 12月～3月は積雪で利用が大幅に減少
- 季節偏在は施設稼働の大きな課題



出典：高山市市民活動部スポーツ推進課 提供資料（2024年）

特定季節(夏)・特定層(競技者)に利用が集中しており、施設の年間稼働率が構造的に不安定である。  
→ 多層利用へ拡張する必要性を示す重要な指標である

# 合宿風景



# 主な利用競技の大会実績

【パラサイクリング】(NF:中央競技団体)  
主な実績(例:杉浦佳子選手)

UCI パラサイクリング世界選手権(リオ)  
WC3 500m タイムトライアル:4位  
国際大会における入賞者を複数輩出

【陸上競技(長距離・中距離)】

主な利用:大学・実業団・高校

全国大会出場

東海大会入賞

国体代表輩出(年度資料より)

【女子バスケットボール(岐阜女子高 等)】

主な利用:高校・大学クラブ

インターハイ出場

県大会優勝

地域交流と強化を兼ねた合同練習の実施

- ・競技者向け施設としての高い有効性を示す
- ・一方、市民・観光客向けの利用は依然として限定的  
→ 成果が競技者に偏在しており、高地環境の価値が一般層へ届いていない状態

これらの実績は、  
高地 × 健康 × 観光 の  
多層利用モデル に発展させる根拠

# NTCの現状課題

## 【データに基づく課題】

- ・利用者は競技者に偏在している
- ・特に夏季に集中し、季節偏在が顕著
- ・冬季はほぼ稼働せず、年間稼働率が不安定
- ・市民利用、観光利用はほとんど確認されない
- ・利用構造が固定化しているため、多層利用への移行が難しい

施設の特性と地域条件を考えると、  
利用多層化が必要条件

# 高地環境の価値(健康・生理的効果)

## 【高地環境の生理学的価値】

- ・赤血球・ヘモグロビン増加
- ・心肺機能の改善
- ・睡眠質の向上や疲労回復

など



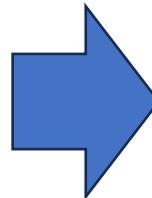
高地環境は「健康資源」としての  
潜在性が高い



出典：飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア

# 高地環境の再定義

従来：競技者の体を  
鍛える高地



今後：市民・観光客の  
身体を整える高地



→利用対象の拡大  
→新規需要の創出  
→地域振興と結びつきやすい



出典：飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア  
：びゅうトラベル

# 海外事例（高地ウェルネス）

## 【海外の成功モデル】

### スイス・ダボス

- ・医療×自然×運動の健康滞在型リゾート
- ・長期滞在の高い消費単価



### オーストリア・ゼーフェルト

- ・スポーツ+温泉+自然の複合型ウェルネス
- ・観光客のリピート率が高い

高地環境を「健康目的」で再利用することで  
高付加価値化

# 飛騨地域の地域資源

## 【活用可能な地域資源】

- ・薬草文化（ヨモギ・トウキ）
- ・温泉（下呂・奥飛騨温泉郷）
- ・森林セラピー



出典 : Wikipedia  
: じゃらんnet

→健康・自然・文化を統合できる  
豊かな基盤がある

これらの資源は低強度の健康体験と親和性が高く、  
高地滞在と組み合わせることで相乗効果が期待できる。

# 統合型ウェルネスプログラム

## 【提案プログラム例】

- ・高地健康ウォーキング
- ・呼吸改善／森林セラピー等の低強度運動
- ・温泉・薬草・健康食を組み合わせたリカバリー



年間を通じた需要創出・観光消費の増加が期待される

出典：飛騨御嶽高原高地トレーニングエリア  
：飛騨の旅

# エリア内での回遊性の創出

## 【エリア内の回遊ポイント】

- ・トレーニング施設（体育館・宿泊棟）
- ・高地ウォーキングルート
- ・森林セラピーゾーン
- ・薬草体験ポイント（ヨモギ・トウキ）
- ・休息・リカバリースポット
- ・展望エリア（高所の景観資源）

## 【回遊のねらい】

- ・単一目的（競技合宿）から複合的な滞在体験へ転換
- ・滞在時間の延長 → 地域消費の増加
- ・季節による利用偏在の緩和
- ・市民・観光客を含む多層利用の促進

施設内外の動線がつながることで、滞在価値と地域消費の双方が向上する。

エリア内部で  
「歩く・学ぶ・整える・鍛える」が循環する  
“回遊型ウェルネス”を実現

# 今後の展望と課題

## 【展望】

- ・市民・観光客を含めた多層的利用へ
- ・官民連携による新たなプログラム創出
- ・高地ウェルネスのブランド化
- ・EBPMに基づく継続的改善

## 【課題】

- ・高地順化に必要な滞在環境の不足
- ・季節偏在の解消
- ・受け入れ態勢（宿泊・交通）の強化
- ・持続的運営のための財源確保

# まとめ

- ・飛騨御嶽エリアは代替不可能性の高い高地資源を有する
- ・競技者中心 → 市民・観光客を含めた多層利用へ転換が必要
- ・高地環境 × 健康 × 観光の統合モデルは地域振興に有効
- ・本提案は国のスポーツ政策・地方創生戦略と整合的
- ・地域経済・健康増進・交流人口の循環創出が期待できる

ご清聴

ありがとうございました